

諏訪岳～唐沢山山行報告

【山行日】2022年 3月 6日(日) 晴れ

【集 合】岩舟支所P AM 8:00

【費 用】マイカー1台 : 300円

【メンバー】CL:鈴木、SL:大西、
石澤、廣瀬、福島、藤原ト

【コースタイム】岩舟支所 P8:00＝大慈寺
P8:10/8:25～村檜神社 8:40～諏訪岳 9:10/9:20
～京路戸峠 9:40～見晴展望所 10:00/10:10～
唐沢神社 10:4/10:50～天狗岩 11:00/11:10～
三の丸 11:15/11:45～高鳥屋山 12:15～
京路戸峠 12:50/13:00～大慈寺 13:30/13:40＝岩舟支所 P14:00



今週は美ヶ原スノーシューハイクの予定だったが、山稜部は風が強く登山不向きの予報である。3週連続で雪山は荒天になり、行き先変更を余儀なくされた。代替山行は近場の低山ハイクとなり、



諏訪岳～唐沢山をピストンで登ることにする。岩舟支所を8時に出発し、大慈寺の駐車場に車を止める。出発の準備をしていると住職の奥様が来て、「車を止めるのは良いが、盗難事故が発生しているので貴重品は置かないで」と教えてくれた。「ハイ解りましたと」返事し、皆さんに貴重品は持参するよう伝える。トイレをお借りし、ストレッチを行なったら出発する。一旦道路に出て、隣接する村檜神社へ向かう。神社への石段を登り、本殿に参拝して安全登

山を祈願する。村檜神社は大化2年(646年)に創建され、国の重要文化財に指定される由緒ある神社である。神社の境内を左に進み、神楽殿先の右側の斜面に登山口がある。九十九折れの山道を登ると展望が良い場所に出て、ここで小休止し衣服調整を行う。ここから諏訪岳の南斜面を巻くように進み、直ぐに諏訪岳への分岐となり右に登山道を諏訪岳に向かって登る。本コース一番の急登で、ロープや立木に掴まりながら登ると平坦な諏訪岳南端に着く。ここから平坦な尾根を少し歩くと石祠を過ぎ、三角点が置かれた諏訪岳山頂に着く。山頂は狭いが北西部が開け、日光連山の山々の眺望が得られる。小休止してデコポンや菓子をいただき、記念写真を撮ったら唐沢山に向かう。西に延びる展望が良い尾根を下り、ベンチやテーブルが置かれた京路戸峠に出る。



ここからは首都圏自然歩道「松風のみち」を歩き、赤松混じりの明るい自然林の中を気持ちよく進む。



アップダウンを繰り返しながら稜線を進み、電波塔が立つ見晴休憩所に着く。電波塔で展望は得られないが、ベンチとテーブルがあり休憩には最適の場所である。くだものや菓子を食べて、水分とエネルギーを補給したら唐沢山へ向かう。ここから下ると林道に出て、高鳥屋山への道を右に見送って再び山道に入る。この先から唐沢山城跡を歩くようになり、空堀を越えて鳩の峰から北城、金の丸、南城から石段を登って本丸跡に建つ唐沢神社に着く。

神社の本殿を参拝し、安全祈願を済ませたら二の丸、三の丸を通してレストハウスに向かう。

途中、大手門は何処にあったのだろうという話になり、大炊の井脇の案内板に寄ると会員の小松原氏と退会したI&Iコンビが居るではないか。久しぶりの再会に驚いたが、少し会話してお別れした。

レストハウス脇のトイレに寄り、ます形脇から展望が良い天狗岩に登る。天狗岩からの展望は良いが、風が強いので昼食の予定を変更し三の丸に移動する。三の丸には大きな休憩舎があり、ベンチやテーブルが有るのでゆっくりランチを楽しめる。お湯を沸かしてカップ麺やみそ汁を作り、お稲荷さんや出汁巻き卵、唐揚げを美味しくいただいた。下山は往路を戻り、途中通



過した高鳥屋山に登り展望を楽しむことにする。高鳥屋山は円錐形の鋭鋒で、急坂を登るのはきついが展望は抜群の頂である。展望を楽しんだら反対側に下るが、新たにゆるやかに下る道がつけられて下りやすくなっていた。アップダウンを繰り返して京路戸峠まで戻り、ベンチで小休止して疲れた足を休める。この先は諏訪岳への道を左に分けて巻道を進み、すぐに右に折れ大慈寺に直接下る道を進む。坂道を下ると岩の上に宝篋印塔が祀られた奥ノ院に出て、さらに東屋を過ぎて階段状の道を下ると観音堂に出て、大慈寺境内を通過して駐車場に着いた。靴を履き替えトイレを済ませたら帰路につき、予定より早く岩舟支所に帰着した。

